

PROFILE

松崎政紀

東京大学大学院医学系研究科生理学講座細胞分子生理学教室

このたび東京大学大学院医学系研究科生理学講座細胞分子生理学教室教授を拝命致しました松崎政紀と申します。私は、平成6年に東京大学理学部生物化学科を卒業し、理学系研究科生物化学専攻に進学しました。学部、修士時には西郷薫教授の研究室においてショウジョウバエ神経発生の分子遺伝学的研究を行いました。その後、分化した神経細胞の機能、特にシナプス機能について研究を行いたいと考え、平成8年から博士課程において、東京大学医学部生理学第1講座の河西春郎助教授（現在、東京大学大学院医学系研究科疾患生命工学センター構造生理学部門教授）の門をたたき、生理学を一から教わることになりました。セミナーでは生理学第1講座の宮下保司教授のグループとご一緒させていただき、神経生理学についての深い考え方を学びました。

博士2年から2光子顕微鏡を用いた実験を開始し、研究室の先輩であった根本知己博士（現在、北海道大学電子科学研究所教授）やアメリカの共同研究者のGCR Ellis-Davies博士（現在、マウントサイナイ医科大学教授）にも助けていただき、小分子化合物を用いた単一シナプス構造・機能の連関と可塑性について研究をまとめることができました。その間に河西先生が生理学研究所へご栄転されましたが、生理学研究所では諸先生方から、分子レベルからシステムレベルまで幅広く生理学を学びました。その後、神経科学への応用が報告され始めたばかりのチャンネルロドプシンを用いた研究をGJ Augustine デューク大学教授（現在、シンガポール南洋理工科大学教授）と行う機会に恵まれ、光遺伝学、行動課題、2光子イメージングを併

用していくことで、随意性の根源、運動発現を導く多細胞の時系列活動と神経回路、シナプス可塑性が引き起こすネットワーク変化に迫れるのではないかと考え、分野を運動の細胞生理学に変えました。平成22年に基礎生物学研究所に教授として研究室を運営する機会をいただいた後、運動回路の研究をマウスとマーマセットを用いて進めています。最新技術の導入だけでなく、自らの手で新しい技術を開発し、新しい生理学の潮流を生み出せるよう研究を進めるとともに、生理学の面白さを多くの学生に伝えられればと考えています。何卒よろしくごお願い申し上げます。

略歴

- 平成6年 東京大学理学部 卒業
- 平成8年 東京大学大学院理学系研究科修士課程 修了
- 平成13年 東京大学大学院医学系研究科博士課程 修了
- 平成14年 岡崎国立共同研究機構生理学研究所 助手
- 平成17年 東京大学大学院医学系研究科 助手（平成19年より助教）
- 平成20年 同 准教授
- 平成22年 自然科学研究機構基礎生物学研究所 教授
総合研究大学院大学基礎生物学専攻 教授（兼任）
- 平成28年 東京大学大学院医学系研究科 教授